

現地
開催

日時

4/6 日 14:00 ~ 15:00

会場

第8会場 6F
金沢市アートホール

皮膚科医が知っておきたい 栄養と腸内環境アプローチ

: 炎症性・免疫性皮膚疾患の長期コントロールを目指して

座長

とりい皮膚科クリニック 院長

鳥居 靖史 先生



セミナー概要

近年、腸内環境と皮膚疾患との関連性について、臨床的に重要なエビデンスが蓄積されている。特に腸-脳-皮膚相関 (Gut-Brain-Skin Axis) の理解は、皮膚疾患の症状改善だけでなく、長期的な疾患コントロールの向上にも寄与する可能性が示唆されている。

腸管透過性亢進 (リーキーガット) 症候群は、様々な炎症性・免疫性皮膚疾患の増悪因子として注目されている。腸壁のタイトジャンクションの破綻により、本来は通過できない未消化物質や毒素が血中に侵入し、全身性の炎症反応や免疫応答の異常を惹起する。この現象は、小麦グルテンや乳製品などの特定食品、ストレス、抗生物質の過剰使用などにより誘発される。

日常診療における実践的アプローチとしては、原因となる食品の除去、腸粘膜の修復、腸内細菌叢の正常化が挙げられる。具体的には、グルタミン、ビタミンA・D、亜鉛、オメガ3脂肪酸などの栄養素補充による腸粘膜再生の促進、さらにプロバイオティクス・プレバイオティクス療法による腸内細菌叢の改善を、従来の治療と組み合わせることで、より安定した治療効果が期待できる。患者個々の生活習慣や食習慣に配慮しながら、これらの介入を段階的に導入することで、長期的な疾患コントロールの改善が可能となる。ただし、小腸内細菌異常増殖 (SIBO) の可能性も考慮し、個々の症例に応じた慎重な治療選択が必要である。

本講演を通じて、皮膚疾患の治療および長期コントロールにおける腸内環境改善の意義と、実践的なアプローチ方法について理解を深めたい。

演者

ゆかスキンクリニック 院長

青木 由佳 先生



共催: 第41回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 / 株式会社MSS

